



記者発表日

平成29年 1 月 12 日

■同時発表先 : 合同庁舎記者クラブ
広島県政記者クラブ
中国地方建設記者クラブ

『分解組立型バックホウ(遠隔操縦装置付き)』 の分解・組立訓練を実施します

「分解組立型バックホウ(遠隔操縦装置付き)」は、遠隔操作機能と13ブロックに分割する機能を有しており、陸路での輸送が困難な河道閉塞(天然ダム)箇所等でも、バックホウを分解しヘリコプターにより空輸ことができ、また、二次被害が想定される土砂崩落箇所では、遠隔操作による無人化施工で作業員の安全を確保した上で復旧作業を実施する事が可能です。

4月に発生した熊本地震にも出動し、阿蘇大橋崩落箇所では余震が続く中、土砂撤去作業を行い、早期復旧に大きく貢献しました。

この度、下記のとおり分解・組立及び遠隔操作による一連の作動状況の確認訓練を実施し、実働対応能力の向上を図ります。

- 日 時 : 平成29年1月18日(水)～26日(木) 9:15～17:00
- 場 所 : 中国技術事務所グランド(別紙1のとおり:安芸区船越南2-8-1)
- 訓練内容 : 別紙2のとおり
- 備 考 : ・訓練は公開で実施し、撮影は可能です。
・取材を希望される場合は、事前に下記問合せ先までご連絡下さい。
・悪天候等の場合には、訓練日程を変更する場合があります。

問 合 せ 先



国土交通省 中国地方整備局 中国技術事務所

副所長(機械)

みやたけ ひでのぶ
宮武 英信

施工調査・技術活用課長

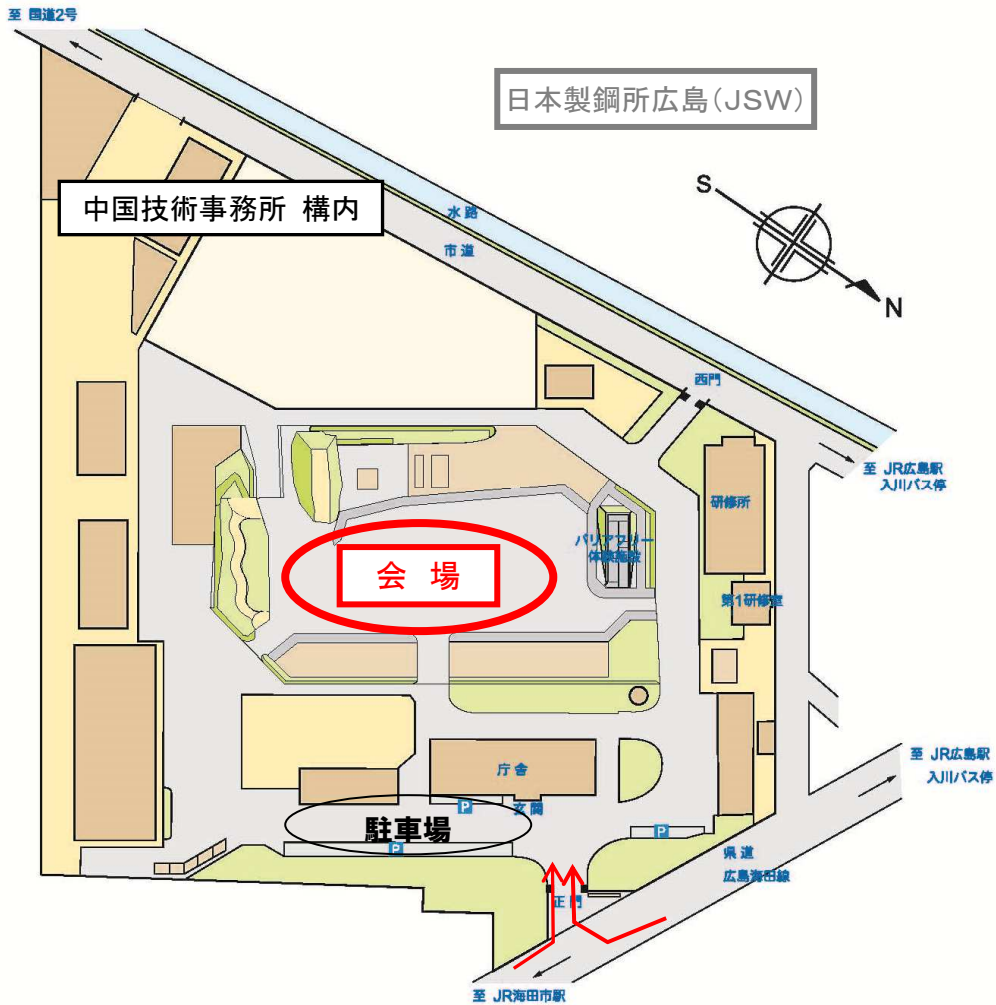
ももさき ひでき
桃崎 英輝【担当】

住 所 : 広島県広島市安芸区船越南2丁目8番1号

電 話 : 082-822-2340(代表)

URL : <http://www.cgr.mlit.go.jp/ctc/>

■ 訓練実施場所



位置図



アクセス方法

■ バスの場合

広島駅 12 番バス乗り場から
海田市方面行きに乗車
(約 20 分乗車)
入川バス停下車
東へ徒歩 5 分

■ JR の場合

広島駅から 山陽本線(上り)
または
呉線(上り)に乗車
(約 10 分乗車)
JR 海田市下車
西へ徒歩 15 分

訓練内容と実施スケジュール

	AM	PM	備考
平成29年			
1月18日(水)	分解組立型バックホウ 分解		25tラフタークレーンを用いての分解作業
1月19日(木)			
1月20日(金)			
1月21日(土)	休日		
1月22日(日)	休日		
1月23日(月)	分解組立型バックホウ 組立		小型移動式クローラクレーン(2台)を用いての組立作業
1月24日(火)			
1月25日(水)			
1月26日(木)	分解組立型バックホウ 試運転(遠隔操作含む)		
1月27日(金)	(予備日)		

※作業時間は、AMは9：15～12：00、PMは13：00～17：00で実施予定
悪天候等の場合には、訓練日程を変更する場合があります

※前回の訓練の様子 (H26)



ラフタークレーン (25t) による分解作業



小型移動式クローラクレーン (2台) による組立作業

■分解組立型バックホウ（遠隔操縦装置付き）の概要



全景

主要諸元	
形式	油圧式バックホウ
バケット容量	1.0m ³ (標準山積)
最大吊上能力	2.9t以下
全長(輸送時)	9.595m
全幅(クローラ含む)	2.980m
全高(輸送時)	3.195m
車両総重量	22.81t
車両の分割	13ブロック(1ブロック当たり2.8t以下)
遠隔操作距離	150m程度(マシンガイドシステム機能付き)



ヘリコプターでの分割・空輸状況

○バックホウの分割状況（13ブロック）

①ブーム

②キャブ・フロア

③パワーユニット

④下部旋回フレーム及び旋回ベアリング

⑤走行フレーム左側

⑥トラックリンク・シューグループ左側

⑦ウエイト下部

⑧ウエイト上部

⑨トラックリンク・シューグループ右側

⑩走行フレーム右側

⑪工具箱及び燃料タンク+分解工具関係

⑫上部旋回フレーム

⑬アーム・バケット

②キャブ及びフロア【750kg】

①ブーム【2,380kg】

③アーム・バケット【1,860kg】

③パワーユニット【2,640kg】

⑫上部旋回フレーム【2,620kg】

④下部旋回フレーム及び旋回ベアリング【1,490kg】

⑪工具箱及び燃料タンク+分解工具関係【1,850kg+α】

⑤走行フレーム左側【1,880kg】

⑩走行フレーム右側【1,880kg】

⑥トラックリンク・シューグループ左側【1,290kg】

⑦ウエイト下部【1,770kg】

⑧ウエイト上部【1,780kg】

⑨トラックリンク・シューグループ右側【1,290kg】

⑬燃料タンク

＜「分解組立型バックホウ（遠隔操縦装置付き）」の特徴＞

1. 開発・・・平成20年岩手・宮城内陸地震での教訓を踏まえ、東北地方整備局で開発に着手。平成25年度に中国地方整備局に導入。全国では11台配備。
2. 遠隔操縦・・・崩落等の二次被害が想定される被災現場で、遠隔で操作することにより作業員の安全を確保し、迅速な復旧作業が可能。
3. 分解組立・・・被災現場までの道が通行不可能な状態でも、13ブロックに分解し空輸して被災現場へ運搬することが可能。
4. 大容量バケット・・・1.0m³の大バケットで、作業期間を短縮し、早期復旧が可能。

■活動状況（H28熊本地震）

・ 出動＜平成28年4月18日＞



熊本地震発生直後に九州地方整備局九州技術事務所へ派遣

・ 帰還＜平成28年10月12日＞



九州地方整備局より帰還

余震や大雨等による二次災害の恐れの中、約6ヶ月（実働68日）の間、無人化施工（遠隔操縦）により応急復旧作業に従事しました。

※復旧作業は、全国から集まった8台で実施。



無人化施工状況（阿蘇大橋）



遠隔操作実施状況